



輸出品目別レポート（なし）

■品目説明

世界的に流通しているなしには「日本なし（和梨）」「西洋なし」「中国なし」の3つの系統がある。日本なしの品種は59種類あり、皮が褐色の「赤なし」の品種には幸水、豊水、新高等や、皮が青色の「青なし」には二十世紀梨、菊水、サンセーキなどがある。日本なしは丸い形をしており、シャキッとした食感が特徴なのに対し、西洋梨はひょうたんのような形で、果肉が柔らかく甘みが強いという違いがある。（農林水産省「[海外ライセンス指針](#)」分割版5日本なしを参照）。

なしの輸出品種は、二十世紀梨などのいわゆる「青なし」が主体であるが、最近は、豊水、新興、新高などの「赤なし」も輸出されている。2024年の日本なしの国内収穫量は17万2,700トン（前年比6%減）、出荷量は16万2,000トンであった。また、都道府県別の収穫割合は、千葉県が12%、茨城県が10%、福島県が9%、栃木県が8%、長野県が7%となっており、これら5県で全国の半数近くを占めている状況である。（農林水産省「[令和6年産日本なし、ぶどうの結果樹面積、収穫量及び出荷量](#)」）。

なお、結果樹面積（注1）の年次推移をみると、過去10年間で減少傾向にあり、2024年には9,570haとなり、前年比3%（250ha）減少した。

（注1）結果樹面積とは、栽培面積のうち生産者が当該年産の果実を収穫するために結果させた面積をいう。

そのほか、青果物に関する詳細情報は、農林水産省「[果樹をめぐる情勢](#)」（2024年10月）、[果樹のページ](#)、[日本青果物輸出促進協議会](#)などを参照。そのほか、関連業界団体として、公益財団法人[中央果実協会](#)、[日本園芸農業協同組合連合会](#)などがある。

■貿易概況

2023年のなしの輸出は金額ベースで前年比17.0%減の812万ドルであった（表1）。数量ベースでは同6.7%減の1,642トンと減少した。

輸出相手国・地域でみると1位は香港で、金額ベースで15.8%減の538万ドル、数量ベースでは同2.2%減の1,163トン、2位は台湾で、金額ベースは同9.7%減の206万ドル、数量ベースは同5.1%減の336トンとなり、これら2地域で全体に対するシェアとして金額ベース、数量ベースとも約9割を占めた。なお、3位はベトナムで、金額ベースは21万ドル、数量ベースは45トンであった。

なお、2024年のなしの輸出額は、10億2,200万円（同14.2%減）であった。

（出所：農林水産省「[令和7年（2024年）農林水産物・食品の輸出額](#)」）



▼表1：日本のなし輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	6,017,613	912	6,388,258	1,189	5,381,834	1,163	△ 15.8	△ 2.2
台湾	1,779,567	242	2,283,117	354	2,061,198	336	△ 9.7	△ 5.1
ベトナム	167,447	31	283,154	57	217,068	45	△ 23.3	△ 21.1
タイ	301,982	52	393,420	72	136,091	33	△ 65.4	△ 54.2
インドネシア	44,952	9	59,313	13	123,523	25	108.3	92.3
全世界	8,690,152	1,313	9,778,772	1,759	8,120,576	1,642	△ 17.0	△ 6.7

注：対象はHSコード 0808.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

日本産なしについては、2007年にはベトナムの植物検疫法が制定されて以降ベトナム向けに輸出することができなくなっていたが、2017年1月16日付で解禁された。輸出植物検疫条件は、生産園地・選果こん包施設等の登録、病害虫に対する検疫措置（3つの措置の中から産地が1つを選んで実施）、輸出向けの徹底選果、輸出検査等を行うことであり、登録された選果こん包施設については植物防疫所が公開している。また2018年9月には、ペルー向けにも日本産なしの輸出が解禁された。

米国向けについては、植物防疫条件が2020年4月16日付で緩和された。輸出可能な地域が4県（鳥取県、長野県、福島県及び茨城県）に限定され、品種も8品種（二十世紀、ゴールド二十世紀、幸水、新興、新世紀、長十郎、新高及び豊水）に限定されていたところ、輸出可能地域が全国（沖縄県及び一部の離島を除く）に拡大するとともに、輸出可能品種の制限が撤廃された。

なお、なしは農林水産省の輸出拡大実行戦略（2025年5月）の輸出重点品目に新規で追加され、2030年までに合計100億円、香港21億円、台湾20億円などを目標としている。主な課題としては「国内の生産量が減少している中、輸出向けの果実を確保していく必要」「中華圏の中秋節を中心とした贈答用の供給が依然として主流」「輸出先国・地域の規制への適切な対応」などが挙げられている。

■海外事情

●香港

2023年の香港のなしの輸入をみると、金額は前年比11.3%増の5,664万ドル、数量は同5.8%増の8万2,155トンであった（表2）。主要輸入相手国の動向をみると、1位の中国は金額が3,456万ドル（前年比9.9%増）、数量が7万877トン（同2.9%増）、2位の南アフリカは金額が559万ドル（同73.9%増）、数量が4,521トン（同52.8%増）といずれも大幅に増加、3位は日本で金額が540万ドル（同25.4%減）、数量は958トン（同11.3%減）と大幅な減少となった。なお、4位はチリで、金額・数量ベースともいずれも前年比で大幅に増加した。



▼表2：香港のなし輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	31,534,214	70,841	31,437,609	68,859	34,565,385	70,877	9.9	2.9
南アフリカ	3,448,971	3,228	3,219,323	2,959	5,599,979	4,521	73.9	52.8
日本	7,134,339	1,007	7,238,583	1,080	5,400,367	958	△ 25.4	△ 11.3
チリ	3,297,030	1,887	1,273,122	792	3,471,129	2,298	172.6	190.2
韓国	2,007,580	592	2,045,898	674	1,846,175	660	△ 9.8	△ 2.1
全世界	54,689,892	82,427	50,897,905	77,683	56,644,067	82,155	11.3	5.8

注：対象はHSコード 0808.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

香港に輸入されている日本産なしは、主に幸水、豊水、二十世紀などの丸い形のなし種であるが、中国産豊水もあり、日本産と同種で競合する。中国、韓国からのなしの輸出先として、いずれも香港は第4位となっている（農林水産省「[海外ライセンス方針](#)」分割版10日本なし参照）。南アフリカなどからは主に細長い形の西洋なし種が輸入されている。

[香港PF深堀レポート 「香港におけるギフト食品市場-月餅・お菓子・花き・青果物- \(香港\)」](#)によると、中秋節商戦や春節商戦のように、市場がギフト用青果物を求める時期に集中してギフト用商品を提供することが肝要であり、そのためには、収穫期ではなくそれ以前に香港バイヤーと大まかな方向性について商談し、その後、タイミングを見計らって細かい点について詰めていく必要があるとされている。

・[香港PF品目別（青果物）カントリーレポート](#)（2024年11月）

・[JFOODO「海外フィールドマーケターによる香港の今がわかる！現地“食”情報レポート」](#)

（2023年3月）

●台湾

2023年の台湾のなしの輸入は、金額ベースで2,340万ドル（前年比9.6%減）、数量ベースで1万2,137トン（同1.8%増）であった（表3）。なかでも概ねを占めるのは韓国で、金額ベースで73.5%、数量ベースで71.4%を占めている。これは台湾が2002年1月、WTO加盟後も関税割当制度が維持され割当数量が拡大された一方、国別数量割当が撤廃され、1kg当たりの輸入単価が日本産の半分以下の韓国産なしの輸入が集中したためである。



▼表3：台湾のなし輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
韓国	21,908,341	8,988	18,552,490	8,650	17,217,577	8,671	△ 7.2	0.2
チリ	577,192	368	2,535,617	1,624	2,617,344	2,084	3.2	28.3
日本	1,411,635	249	1,667,238	326	1,678,975	351	0.7	7.7
ニュージーランド	2,418,304	1,206	2,308,034	760	994,407	437	△ 56.9	△ 42.5
米国	1,013,235	648	830,831	563	896,030	594	7.8	5.5
全世界	27,328,706	11,459	25,894,209	11,922	23,404,333	12,137	△ 9.6	1.8

注：対象はHSコード 0808.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

品種は台湾種の横山梨と、日本から穂木を輸入して接木栽培する豊水、幸水、新高などの品種がある。国産なしのシーズンは5~9月である一方、韓国や日本からの輸入ものは9月以降となるので、市場への出回り時期のすみ分けができている。

台湾PF「日台高雄フルーツ祭 アンケート結果に関するレポート」(2024年8月)によると、来場者へのアンケート結果で、よく食べる日本のフルーツ、今後食べてみたいフルーツではいずれもなしが5位となっている。

・[JFOODO「海外フィールドマーケターによる2025台湾の今がわかる！現地“食”情報レポート」\(2025年3月\)](#)

一方、台湾の水際検査における日本からの生鮮青果物の残留農薬基準超過件数が、2023年に60件と報告されており、他国と比べても多い状況であることから、輸出に際しては留意が必要である。

・[2025年の食品輸入サンプル検査の強化品目を公表\(台湾、日本\) | ビジネス短信 一 ジェトロの海外ニュース - ジェトロ](#)

● そのほか

- ・[ベトナムPF品目別\(青果物\)カントリーレポート\(2024年3月\)](#)
- ・[ベトナムPF品目別\(競合国との比較\)カントリーレポート\(2025年3月\)](#)
- ・[タイPF深堀カントリーレポート「タイ輸入における青果物・畜産物の輸入検査実態調査」\(2023年3月\)](#)
- ・[タイPF深堀カントリーレポート「タイにおける他国産輸入青果物の輸入・販売・評価等調査」\(2023年1月\)](#)

ジェトロ「現地市場価格調査」では、なしの主要都市における市場価格をまとめている。青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、



インド、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドをまとめている。

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。